

私は戦争止める側へ

高校生平和祭り

愛知・尾張旭

「平和の運動を次の世代に引き継がせよう」。愛知県尾張旭市で、平和を訴える高校生を招いた「9条をまもる平和祭り」(5日)が開かれ、200人を超える参加者が交流しました。

主催は九条の会・尾張旭などで行う実行委員会。招かれたのは、学費の公私格差是正や平和への思いを訴える「高校生フェスティバル」のメンバー10人。

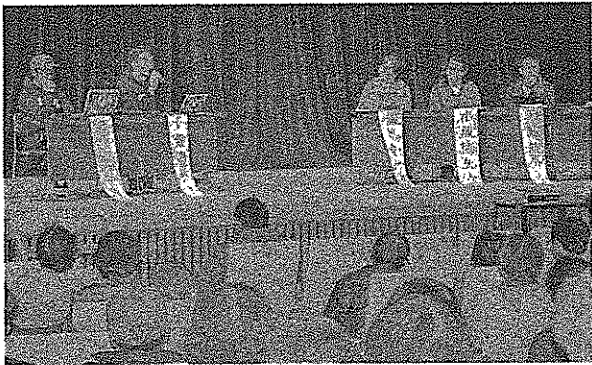
尾張旭市の女子高校生(2年)は、広島市の平和の灯(ともしび)を愛知に自転車で届ける

若者熱く

希望見える社会こそ

シールズが講演

静岡・藤枝



SEALDsの林田(左端)、千葉(その右)の両氏と対談する青年ら=5日、静岡県藤枝市

「民主主義ってなんだ?」戦争法の廃止を求めるSEALDs(シールズ)自由と民主主義のための学生緊急行動)の林田光弘さん、千葉泰真さんと考える「市民のつどい」(5日)が静岡県藤枝市で開催され、市民ら400人が参加しました。

主催は、愛する人を戦場に送らない藤枝市民のつどい実行委員会。元市長や静岡大学名譽教授などの著名人、共産党、民主党、社民党、新社会党が賛同しています。

林田さんは、「僕は未来の希望が見えないような社会がおかしい」と思い行動していきなす。僕は幸せになりたいんです。日本のために貢献して死にたい

藤枝市の青年との対談も行われました。平和や人権について活動しているエバーグリーンの岡崎航平さん(22)は、集まった時には「なで幸せな世の中を勝ち取りましょう」と力説しました。

千葉さんは、「民主主義は常に未完のもの。それを追い求めていく姿勢が民主主義に近い」と思っています。憲法を守るためには不断の努力が必要。国民として政府に声をあげていきたい。戦争法に賛成した議員たちのうす笑いも僕は絶対に笑えない。笑いが絶対に行かない。私たちが参院選で野党が勝利するためには行動が必要があると強く感じました」と話していました。



9条をまもる平和祭り

ピースリレーの活動を報告。「戦争をするのも止めるのも人間。私は止める側にいたい」と平和の灯を自分たちで運ぶことで、この灯は絶対に消してはいけないものだと思えた。平和を守っていきなす」と語りました。

高校生フェスティバルのメンバーは、11月3日に「BIGフェスティバル」(名古屋市内北区)で1000人を超える群舞の参加メンバーです。会場で平和高校生を群舞を誘う参加者ら5日、愛知県尾張旭市

への思いを全身で表現する群舞を披露すると、「よかったよ」と歓声がわきました。

年配の参加者から「平和の問題はいつから意識した?」と質問が出され、高校生たちは「戦争は外国の出来事だと思っていたが、高校に入ってからいろいろ学んだ。戦争は絶対に行かない」と答えました。

群舞に参加した男子高校生(3年)は「18歳になって来年の参院選が初めての選挙。政治は、おとなが決めるものだ」と思っていたら、真剣な表情で見ていました。

投票したい」と話しました。

主催者の澤田敏二郎さんは、「憲法9条が平和を守ってきた。若者と一緒に運動を発展させたい」と述べました。

尾張旭市出身のシンヤンソング歌手のコンサートも行われました。

会場では、カレーライスや赤飯、紅茶やコーヒートなど、すべてがワンコイン(100円)で販売され、お昼のひと時は多くの人でにぎわいました。会場には、戦時中の雑誌なども展示され、参加者らは真剣な表情で見ていました。